

## おあしす米・生産者だより

拝啓

木々が色づく季節となりましたが、皆さんお変わりありませんか。阿蘇では10月中旬並みの暖かい日があるかと思うと、翌日急に冷え込み、着るものに困る今日この頃です。今年は秋の長雨だったので、紅葉はしっかりと色づく前に落ちてしまいました。また、漬物用に干した大根の乾きが遅いと、みとばあちゃんが言っています。この季節、農家の庭先には色とりどりの農作物が干されます。大根、豆、柿、椎茸、鷹のツメ…。あちらでもこちらでも軒先に大根が吊るされているのを見ると、秋らしさを感じます。



さて、この1ヶ月にはいろいろなことがありました。まず、我が家にとって一番のニュースといえば、牛がやってきたことでしょうか。もちろん、「阿蘇の赤牛」です。緑の草原に赤牛が放牧されている様子はとても絵になります。励志兄ちゃんは4年前まで牛を飼っていた牛飼い玄人ですが、生き物がいると休めないため、ひとりで飼うのは大変です。このたび助手(?)ができたことを機に再開することになったのです。10月末に子牛5頭と、親牛3頭を買いました。親牛のうち1頭は既に妊娠中で、今月下旬には出産する予定です。

さて、米作りは一段落しましたので、今月は牛のことを少しお話ししたいと思います。一般的に肉牛の飼い方には「繁殖」と「肥育」の二通りがあります。繁殖牛を飼う場合は、母牛に種付けをして子牛を産ませ、8から10ヶ月ほど育ててから子牛を売ります。肥育牛を飼う場合は、文字通り「肥育」して十分に太らせてから肉牛として売ります。

我が家で再び飼い始めたのは「繁殖牛」。健康な子牛を育てるため、励志兄ちゃんは牛の運動場づくりに励んでいます。牛は夏の間は放牧され、冬の間は牛舎で過ごしますが、牛舎でも適度な運動ができるようにするためです。子牛の時に健康な胃を作っておかないと、太らせたときにただのデブになってしまいますから。その点、阿蘇のあか牛は広い草原でのびのびと育ち、健康で丈夫な胃になります。赤牛には「サシ」が少ないと言われますが、それはよく運動している証拠です。口の中でとろけるような肉質ではありませんが、煮ても焼いてもじゅうぶん柔らかい上に、さっぱりしているので胃もたれしません。皆さんも機会があればぜひ一度お試しください。

あまり歓迎できない出来事もありました。元気が取柄の私、エリが、村のバレー大会に向けた練習中にアキレス腱を切ってしまったのです。今年の農繁期が終わったその日に怪我をしたので、職務遂行といえなくもないのですが、本人はちょっとがっかりしています。そんなわけで牛の世話も今年は手伝えそうにありません。痛みが全くない上、上半身はいたって元気なため、病院からは10日間で帰ってきました。今はハイハイしながら、マイペースで家事や会計をこなしています。



それから村のニュースがもう一つ。私達が住む白水村は、隣の久木野（くぎの）村と長陽（ちょうよう）村と合併することが決まっていますが、新しい村名が「南阿蘇村」に決定しました！住民の数が1万人を超える大きな「村」の誕生です。新しいトンネルが開通してますます空港や市内が近くなった南阿蘇。早くから観光開発が進んだ北側の阿蘇谷とはまた違った魅力がたくさんあります。その一方では、商業施設が増えて景観が乱れるのではないかと心配もしているところです。南阿蘇があまり妙な開発がされずにこののどかさが残ればいいなと願っているのは、私たち3人だけではないはずなのですが...

これからは日に日に寒くなりますが、皆さんどうぞ風邪など召されませんように。



南外輪山から眺める南郷谷

平成15年11月18日  
おあしす米生産者 大津 励志  
企画・レイアウト 耕太  
生産者便り担当 愛梨